

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	山崎かおり

授業の概要

漢字や日本語の基礎を学ぶ授業です。具体的には、まず第1回～8回(文字表現編)で、漢字と言葉(仮名遣いなど)の基礎知識を学びます。次に、第10回～14回(口語表現編)で、敬語(待遇表現)や就職面接の方法を学びます。また、以上の知識の確認として、漢字検定(3級・準2級)や日本語検定(3級)の問題にも取り組みます。期末試験だけではなく、教科書から切り取る提出シートや検定問題を提出することも評価の対象となるので、毎回の授業で着実に課題をこなしていくことが重要です。

授業の問題点

漢字や言葉を学ぶということで、一見基礎的な勉強になりますので、大学の授業として学生が満足できるレベルに持っていくことが重要になります。ちなみに学生から、日本語を勉強しているのに意外と難しかったとの声がありました。

また、この授業では、講義だけではなく学生の提出と教員の添削・返却を繰り返していきませんが、去年に引き続き今年度も、この形態の授業にしては履修者が多く(117人と87人のクラス)、教員の添削・返却を毎週滞りなくこなしていくことに工夫が必要でした。加えて、席がつまった状態で授業が行われるため、学生に静粛に授業を受けさせることも課題でした。

授業アンケートにおいては、「授業外学習(予習や復習など)をしましたか」「質問や発言をしましたか」の項目のポイントが低かったです。

授業改善の課題・方策

授業は、問題集が中心となる『キャリアアップ国語表現法』という教科書をもとに進めますが、それ以外にもこちらで作成した多くの資料を提示し(漢字の部首、音訓、四字熟語等)、それぞれのテーマの全体像をつかめるように心がけました。また、就職面接の参考DVDを見せたりするなど、補助資料の充実に努めました。学生の意見の中に「日本語の正しい用法をしっかりと身につけることができました」、「プリントが分かりやすかった」とあったので、嬉しく思います。

人数が多いため、基本的に座席指定制とし、不公平にならないように何度か席を変更しながら授業を進めました。これが功を奏し、全体的には静粛に授業を展開させることができたと思います。

授業アンケートでポイントが低かった、授業外学習や質問発言は、既に授業の内容に含まれていますが、まだ足りないと思う学生が多いということだと思います。学生の自主的な勉強を促す工夫をすることが、今後の課題となると思います。

その他

特にありません。